

MACROCOSM



CONTENTS

- 2 財団法人 青少年国際交流推進センター理事長 挨拶
- 3 財団法人 青少年国際交流推進センター 平成21年度事業計画
- 4 日本青年国際交流機構(IYEO)会長 挨拶
- 4 平成21年度 日本青年国際交流機構(IYEO)活動計画
- 6 第21回「世界青年の船」事業
- 10 第7回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」
(地方プログラム)
- 13 お知らせ

財団法人 青少年国際交流推進センター理事長 挨拶



財団法人 青少年国際交流推進センター
理事長 上村 知昭

平成21年度のスタートにあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

当センターが発足して16年目を迎え、この間に、内閣府青年国際交流事業の既参加青年の事後活動組織である

日本青年国際交流機構(IYEO)と連携して青年国際交流事業と国際交流を基本とした諸活動を展開し、地域の国際化と人材育成に取り組んでまいりました。

その成果は、内閣府青年国際交流事業のプログラム充実、事後活動団体としてのIYEOの活性化、他団体との連携推進等に表れていると認識しています。

平成20年度は、天皇皇后両陛下の御成婚を記念して始められた内閣府青年国際交流事業が50回となり、本年4月20日に、両陛下をお迎えして内閣府並びに日本青年国際交流機構主催による「青年国際交流事業50年既参加青年の集い」が開催されました。当センターも同事業の中心的な実施、支援団体として全面的な協力を行ったところです。

変化が激しく、多様化が進む現代においては、視野の広い対応力のある人材が求められており、そうした人材を育成するうえで、国際交流の場は大変に効果的であると考えます。当センターは、国際交流活動や青

少年育成活動を通じて幅広く人材育成に取り組み、広く社会に貢献することを目指しています。そのために、国や地方の青少年国際交流事業に貢献するとともに、日本全国並びに世界に広がるIYEOのネットワークの機能・活動等をバックアップする事務局的機能も果たしつつ、様々な自主事業を展開しています。また、出版物による広報や種々の啓発活動を通じて、国際交流活動のノウハウや有効性について広める努力をしています。

具体的な自主事業としては、子どもたちの視野を広めることを目指して、在日の外国青年を学校に派遣しての「国際理解教育支援事業」、国際交流活動のリーダー育成を目指した「国際交流リーダー養成セミナー」、テーマを定めてのスタディ・ツアーなどを中心に展開し、次の時代を担う青少年の人材育成に力を入れて取り組んでいます。また、当財団の広報誌である「マクロズーム」については、昨年度より装いを新たにし、季刊誌として発行していますが、従来よりも幅広い範囲からの情報収集等も行い、多彩な内容をお届けしたいと考えていますので、皆様からも積極的な情報提供をお願いいたします。

最後に、改めて国際交流活動並びに青少年活動を推進されている皆様に敬意を表しますとともに、共に力をあわせて社会に貢献できる活動を推進してまいることをお約束してご挨拶とさせていただきます。

財団法人青少年国際交流推進センター 役員名簿 (第9期 任期 平成21年4月1日～平成23年3月31日)

理 事	会 長	空 席	
	副会長	山田 馨司	元総務事務次官
	理事長	上村 知昭	元内閣広報官
	専務理事	坂田 清一	日本青年国際交流機構顧問
	理 事	井出 満	元総務庁統計局長
	理 事	大森 充	元日本青年国際交流機構会長
	理 事	川上 和久	明治学院大学副学長
	理 事	木原 光資	東都交通(株)代表取締役社長
	理 事	酒井 洋幸	日本青年国際交流機構顧問
	理 事	寺下 英明	日本青年国際交流機構顧問
	理 事	永山 喜緑	元沖縄開発事務次官
	理 事	萩原 節泰	商船三井客船(株)代表取締役社長
	理 事	松尾 弑之	上智大学教授
	監 事	監 事	奥野 照義
監 事		久世 勇	元財団法人公益法人協会専門委員

(五十音順)
(全員非常勤)

(財) 青少年国際交流推進センター平成21年度事業計画

1 青少年国際交流事業の企画、実施及び協力

(1) 青少年国際交流スタディツアー

地域での国際交流活動に関心と意欲のある青少年を内閣府の青年国際交流事業既参加青年の組織のある国に派遣し、ボランティア活動への取組や訪問国青年の案内による視察、調査等を行う。年1回 8日間、参加人数10人程度

(2) 国際理解教育支援事業

内閣府の実施する青年国際交流事業に参加した在外外国青年等を、国際理解教育に資するため、日本の学校に派遣する。

年6回 派遣人数 各3人程度

(3) 内閣府を始めとする国等の実施する青年国際交流事業への実施協力

とともに、政府刊行物センター等において販売する。年1回発行1,500部

(3) 内閣府青年国際交流事業50周年記念誌の編集を日本青年国際交流機構と共同で行う。

(4) その他

青少年国際交流事業に関連する各種資料を作成し、関係者に配付する。

2 青少年国際交流に関する啓発及び研修

(1) 青少年国際交流全国フォーラム

全国各地域で国際交流に携わる指導者及び青年を対象に、有識者の講演、青少年国際交流活動に関する事例発表・討論等を行う。

年1回 広島県で開催、参加人数 300人程度

(2) 国際理解促進のための指導者養成セミナー

国際理解の促進を図るため、国際交流に携わる指導者の養成を行う。

年1回 東京で開催、参加人数30人程度

(3) 青年国際交流事業報告会

国際交流に関心のある青年を対象に、青年国際交流事業参加者による報告会を行い、国際交流事業への参加を促す。年3回、東京で開催、参加人数 各150～250人程度

4 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究

(1) 青少年国際交流情報ネットワークの整備

内外の青少年国際交流関係者に関する情報を収集し、ネットワークを整備する。

(2) 海外における国際交流活動に関する情報収集

関係各国に職員等を派遣し、国際交流に関する情報を収集する。

(3) ホームページによる国際交流活動に関する情報提供

5 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等

(1) 国際交流活動の推進

全国各地域で行われる青少年の国際交流活動を推進する。

(2) 青少年国際交流コンサルティング

青少年国際交流事業の実施を希望する団体を対象に、青少年国際交流事業の企画、実施に関する相談に応ずる。

(3) 国際ボランティア等に関する情報提供

国際協力、国際貢献に関心のある青少年に対して、国際協力、国際貢献に関する活動団体、活動内容等を紹介する。

3 青少年国際交流に関する出版物の刊行等

(1) 情報誌の刊行

全国各地域や職域及び海外において行われている青少年国際交流活動の紹介などを中心とした情報誌「マクロコズム」を発行し、一般に配布する。季刊 11,500部/1回、3,000部/3回

(2) 年報の刊行

全国各地域や職域及び海外において行われている青少年国際交流活動の実施状況など、青少年国際交流に関する情報や資料を収集、整理した年報を作成し、国際交流実施団体等に配布する



の国際連携組織(SSEAYPインターナショナル)

- ① SSEAYPインターナショナル総会の開催
- ② 共通連携活動の取組
- ③ SSEAYPインターナショナル事務局担当国としての対応
- (2) 「世界青年の船」事業参加41か国との事後活動国際連携組織(SWYAA)
 - ① SWYAA総会の開催
 - ② 共通連携活動の取組
 - ③ SWYAA事務局としての対応
- (3) 中華全国青年連合会を基本にした「日本・中国青年親善交流」事業の中国既参加青年との連携
 - ① 中国との交流プログラムの推進
- (4) 「日本・韓国青年親善交流」事業の韓国既参加青年との連携
 - ① 「日韓交流連絡会議」の開催
- (5) 「国際青年育成交流」事業の交流国であるヨルダンとドミニカ共和国とのネットワーク形成
- (6) 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」のネットワーク形成

第6分野：内閣府青年国際交流事業募集広報への協力

- (1) 年間を通しての広報活動の工夫
- (2) 事業報告会及び事業説明会の開催
- (3) 大学での事業説明会への協力
- (4) 募集パンフレットの配布
- (5) マスコミへの紹介

第7分野：財政基盤の確立

将来を展望した運営と財政基盤確立の取組

Ⅲ. 本部における事業計画

1. 全国大会の開催

本年の全国大会は、内閣府(総理府・総務府)青年国際交流事業50周年を記念する大会として位置付ける。

第25回全国大会広島大会 日程：平成21年12月5日(土)～6日(日)
開催地：広島県

2. 全国推進会議の開催

第50回全国推進会議 日程：平成21年12月4日(金)～5日(土)
開催地：広島県
第51回全国推進会議 日程：平成22年3月6日(土)～7日(日)
開催地：東京都

3. ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)

平成21年度中に8ブロックにおいてブロック大会を開催する。今年度の中国ブロックについては、全国大会と同時開催とする。ブロック毎に活動方針に沿ったスローガンを設定し、ブロック大会開催の際に掲げて、会員の活動についての共通認識の形成と意識高揚に資する。

4. 内閣府(総理府・総務府)青年国際交流事業50周年記念事業への取組

今年度は、内閣府(総理府・総務府)青年国際交流事業50周年の年にあたり、様々な事業の見直しも行われることになる。この機会に、50年を振り返り、新たなスタートに向けての記念事業を実施して、成果をまとめるとともに会員と共有する場をつくる。

- (1) 記念誌として、ターニングポイント第Ⅲ巻の作成
- (2) 内閣府との連携による青年国際交流事業50年の集い
日程：4月20日 開催地：東京

5. IYEO設立20周年記念からスタートした事業の継続

設立20周年記念を機に取り組んだ事業のうち、成果をあげたものから継続して取り組んでいく事業を選定して積極的に取り組む。(グローバル・フォト・コンテストの作品展示の推進、IYEO Cafe、広報活動の推進)

6. 都道府県IYEO役員研修の開催

都道府県IYEOで事務局を担当する役員メンバーから代表者を集め

て、実務研修を行う。

都道府県IYEOの活動基盤の充実を図ることにより、全国組織としての組織基盤の確立を目指して人材育成の一環として行うものである。今年度は、活動方針に沿った活動を具体的に推進するに当たって必要な運営能力の向上を目指したプログラムを組み立てること、特に考えて組み立てる力を身につけることを目指した研修とする。

日程：6月20日～21日(1泊2日) 開催地：東京

7. 海外とのネットワーク

- (1) SSEAYPインターナショナル第21回総会の開催
(日程：5月1日～4日 開催国：インドネシア)
- (2) 「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)国際大会の開催
(日程：9月2日～6日 開催国：オーストラリア)
- (3) 中華全国青年連合会を基本にした「日本・中国青年親善交流」事業の中国既参加青年と連携する。
- (4) 「日本・韓国青年親善交流」事業の韓国既参加青年との連携「日韓交流連絡会議」の開催
(日程：8月21日～23日 開催国：日本)
- (5) 「国際青年育成交流」事業のネットワーク形成に向けて国内におけるAir-Net Dayの開催などを軸におきながら継続的派遣国を中心に発展
- (6) 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」のネットワーク形成に向けて

8. 国際支援活動

- (1) ケニアへの難民支援プロジェクト、並びにインドシナ津波被害国であるスリランカへの支援を始めとする「世界青年の船」事後活動連携組織(SWYAA)における国際支援活動
- (2) インドシナ津波被害国であるタイ、インドネシアへの支援、並びにタイの「ホープフル・チルドレン」プロジェクトへの支援活動を始めとする「東南アジア青年の船」事業事後活動連携組織(SSEAYPインターナショナル)における国際支援活動
- (3) 中国における四川大地震被災への支援活動への継続

9. 事後活動「Bulletin Board」の発行

年5回(全体発送と全国大会案内、事後活動ニュースの発送時に同封)都道府県IYEOの連絡文書発行に協力する。

A4両面スペースに各都道府県毎(またはブロック毎)に印刷して全体送付の際に同封する。

10. 各事業直後の全体での事業報告会の開催(年3回)

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)及び(財)青少年国際交流推進センターと共催。

- (1) 第21回「世界青年の船」事業報告会
平成21年6月14日(日)
- (2) 平成21年度「航空機による青年海外派遣」事業報告会
平成22年2月14日(日)
- (3) 第36回「東南アジア青年の船」事業報告会
平成22年2月28日(日)

11. 平成22年度内閣府青年国際交流事業募集広報への協力

内閣府青年国際交流事業の充実をはかるために、広報活動の協力を重点をおいて取り組む。

- (1) 年間を通しての広報活動の工夫
- (2) 事業報告会及び事業説明会の開催
- (3) 大学での事業説明会への協力
- (4) 募集パンフレットの配布
- (5) マスコミへの紹介
- (6) その他、効果的広報活動を検討し推進

12. 財政基盤の確立

会員に対しての呼びかけを含め、継続的な寄付金収入の確保に努める。

第21回「世界青年の船」事業

■日本国内プログラム

第21回「世界青年の船」事業は、日本参加青年108名と、カナダ、エジプト・アラブ共和国、フィジー諸島共和国、モリシャス共和国、ニュージーランド、ノルウェー王国、ペルー共和国、トンガ王国、アラブ首長国連邦、バヌアツ共和国、ベネズエラ・ポリバル共和国、イエメン共和国から138名の青年が参加して実施されました。参加青年は平成21年1月から3月にかけて、「縁JOY - Journey Of Youth -」のスローガンを掲げ、日本国内活動と40日間の船内及び訪問国活動を行いました。

日程	活動
1月14日	外国参加青年来日
1月15日～18日	日本国内活動（外国参加青年のみ） 都内視察、地方プログラム（岩手県、栃木県、茨城県、三重県、香川県、大阪市）
1月18日～22日	出航前研修、国際連合大学訪問 （日本参加青年は17日～研修開始）
1月23日	日本（横浜）出航
2月5日～7日	トンガ（ヌカアロファ）訪問国活動
2月11日～14日	ニュージーランド（オークランド）訪問国活動
3月3日	日本（晴海）帰港、外国参加青年離日

ボランティアスタッフの感想(抜粋)

- ❖ リーダーとして、準備段階から大変なことばかりでしたが、終えてみて、かなりの達成感があります。至らない部分もあったと思いますが、青年から感謝され、「人のために何をどう行動すべきか」ということを考える力が身につきました。（都内視察）
- ❖ 「ありがとう。とても楽しかった」と言われた時はすごく嬉しかった。またエジプトに対する考えが大きく変わり、欧米とはまったく違うカルチャーショックを味わえた。（都内視察）
- ❖ 以前から（午前中に交流した）ヒッポファミリークラブに興味があったので、このような機会がもてて良かった。午後の早稲田大学訪問では、最近話題のオバマ大統領就任に関する各国青年の意見を聞くことができ、更に海外情勢に興味をもった。（課題別視察／異文化理解コース）
- ❖ 教育は画一的に行うのではなく、東京学芸大学附属高等学校大泉校舎のように生徒に合わせる事が大切だと思った。（課題

別視察／教育コース）

- ❖ 予想していた以上に多くの参加青年がNHKに興味を示し、質問をする姿が目に残った。日本国民としてNHKに関する知識が深まって良かった。（課題別視察／情報・メディアコース）
- ❖ 以前から有機農業について興味はあったが、今回の訪問によって初めて知ったこともあり、循環型社会のための取組について詳しく学べた。（課題別視察／持続可能な地球社会コース）
- ❖ 以前から国際連合に興味があり、将来このような仕事をしたいと思っていたので、得難い経験をさせていただいた。（課題別視察／国際連合コース）
- ❖ 「世界青年の船」事業の既参加青年が、この受入プログラムを支え、受入団体の青年と交流している姿を見て、参加青年たちも事後活動について考えるよい機会であると実感した。（課題別視察／青少年育成コース）

【都内視察】



【地方プログラム】



▲ 茶道の作法についての説明を受けた後、お茶をいただく（茨城県）



▲ 2泊3日のホームステイでお世話になる家族とあいさつをする（大阪市）

▲ 日本人ボランティア青年の案内で明治神宮を訪れるトンガ参加青年

【コース別課題別視察】



▲ 東京学芸大学附属高等学校大泉校舎で高校生が「知的探求クラス」で地図の読取方法について学ぶ様子を見学（教育コース）



▲ 佐藤指導官の有機農園を訪し、持続可能な社会について学んだ後、農作業を手伝う（持続可能な地球社会コース）



▲ 日本BBS連盟を訪し、コースメンバー全員で作り上げた連風を揚げる参加青年たち（青少年育成コース）

■船内活動



▲模擬国際連合安全保障理事会を実施し、仮想「ミナダナオ島紛争」をテーマに白熱した議論が展開された(国際連合セミナー)



▲「国際連合の三層構造」について高橋一生指導官の講義で学ぶ(コース・ディスカッション)



▲日本参加青年が「水」に関する環境教育ワークショップを主催し、多くの参加青年と共に環境について考える(PYセミナー&ワークショップ)



▲エジプトの参加青年による文化紹介(ナショナル・プレゼンテーション)



▲日本文化の体験として餅つきをする(グループ活動)



▲ピースカフェで広島や長崎の原爆被害について学んだ後、平和を祈念して千羽鶴を折る(自主活動)

■訪問国活動ートンガ



▲トンガの観光と文化を促進する「トンガン・ビレッジ」を訪問し、トンガの伝統文化であるカバ・セレモニーを体験する



▲村訪問で地元青年からトンガの伝統的なダンスを習う

■訪問国活動ーニュージーランド



▲異文化理解コースは人権委員会を訪問し、「人権とは何か」について意見交換をする(コース別課題別視察)



▲学校訪問で民族衣装を着て自国の文化を生徒たちに紹介する



▲約120名の地元青年を船上に招いて「Youth Diversity and Identity Event」を実施し、「多様性」に関するディスカッションや文化交流をする

第21回「世界青年の船」事業に参加して

今日では手軽に世界を「知る」ことができるようになったが、世界を「身近に感じる」ことが13か国の青年が集まる「世界青年の船」事業に参加することで実現した。45日間も寝食を共にすると、ただ異文化を「知る」だけではうまくいかない。本当にその国の人と生活にどっぷり浸かることで、どれだけ相手を尊重することが大切かを実感した。

そもそも私が「世界青年の船」事業に参加しようと思った理由は、世界の縮図と言っても過言ではないほどいろいろな国の人々が一堂に会し、インターネットや携帯電話もなく、人が人と向き合うことしかできない場所で、未来を担う青年といかに多文化共生社会を築くことができるか、それを試してみたかったのだ。多様性がある分、小さなことから大きなことまで衝突が多々あった。

特に印象的だったのが、プログラム後半で行われるサマリー・フォーラムの企画・運営を務める委員会での出来事である。委員会はノルウェー、ニュージーランドと日本参加青年から成る、インターナショナルチームで構成されていた。サマリー・フォーラムは、コース・ディスカッションという6つのテーマに分かれて行われるディスカッションの成果発表や、コースを超えて意見交換することが目的であった。

初めはどんな面白いフォーラムにするか胸を躍らせていたが、委員会のメンバーで話し合いをする以前の問題として、話し合いの進め方やゴールまでの導き方が食い違っていたり、様々なことで衝突したりした。日本参加青年は相手の考えを飲み取ったり、じっくり考えてから口にしたりして、皆が同意できるような一つの答えを導いていく



トンガの学校訪問にて

第21回「世界青年の船」事業 日本参加青年 金子 茉莉乃

傾向があった。だが、外国参加青年の場合、時には相手の意見を真っ向から批判してでも積極的に主張し、素早い決断力で話し合いをどんどん進めていくのであった。

お互いの話し合いへの姿勢や意見の違いに戸惑い、納得のいかないまま議論を終了させたり、何度も意見を衝突させたりすることがあった。しかし回を重ねるごとに、相手の意見に耳を傾けることや、自分の意見や想いをしっかり伝えながらも相手の立場に立って歩み寄ろうとする姿勢が見られるようになった。両者の間に折り合いをつけて譲歩することが必然的に求められ、それが最善の解決策だとお互いに気づいたのだ。最終的にどこの国の人であろうと、どんな意見を持っていようと、それは関係のないことで、人と人が分かり合おうとする時に「Compromise spirit」が大切であるということを知ることができた。

また、プログラムでの経験をいかして、身近な多文化共生社会を実現するべく私が在籍する大学で国際交流支援団体を立ち上げ、在住する大田区では、区を挙げての国際交流プログラムの運営にも積極的に参加していきたいと思っている。

第21回「世界青年の船」事業(SWY21)の参加青年がプログラムを終えて、皆が声を揃えて「We are SWY family」と言うようになった。世界中の人々が、国境や人種、言語、宗教の違いを越えて、皆が家族のように相手を大切に思えたら、世界はもっと優しい場所になるのではないかなと思う。SWY21から世界が変わった！と言われるような、すてきな未来の「Change agent」に私もなりたいと思う。

「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議(以下、既参加青年会議)

既参加青年会議は、2009年3月22日～27日までの6日間、東京で開催された。オーストラリア、カナダ、コスタリカ、エクアドル、フィジー、ニュージーランド、ペルー、ソロモン、トンガ、ベネズエラの10か国からの会議代表者のほか、日本青年国際交流機構の会議代表者、実行委員、事務局スタッフが会議に参加した。

既参加青年会議では、様々な事後活動について活発な意見交換を行い、その結果、以下のプロジェクトについて、各国で取り組むことに合意した。(議事録より抜粋。議事録の詳細はホームページを参照。http://www.swyaa.org/conference/2009/2009_Index_E.htm)

■異文化理解教材作り

既参加青年が学校を訪問し、各国の文化を紹介し、異文化理解を促進する際の手助けとなるように、各国のコスチュームや、ナショナル・プレゼンテーションの写真などを含む「教育パッケージ」を作成する。

■One Book Project

児童用図書を集め、それを多言語に翻訳し、自然災害で被災した子供たちに寄付するというものである。

■植林活動「世界青年の船の森」

「世界青年の船」20周年事業の一環として行われた「世界青年の船の森」の植林が実施されたことを受け、その森を見に行くスタディ・ツアーを企画する。主な活動は環境と文化をテーマとした現地視察で、「東南アジア青年の船」事業のインドネシア既参加青年や地元青年との交流を含む日程となる(2009年末予定)。



「世界青年の船の森」植林現場

■Our World One World

コスタリカで数年前から実施し、シンガポール、バーレーン、インドでも実施したプロジェクトに、各国でも取り組むことを提案。内容は、フィルム・カメラを経済的に困窮している子供たちにプレゼントし、カメラの基本的な使い方を教え、子供の視点で自由に写真を撮ってもらおうというもの。現像した写真を展示し、広く一般の人にも鑑賞してもらおう、という活動。SWYAA ベネズエラは、2009年5月に実施する予定を発表した。

第21回「世界青年の船」事業 事後活動連携強化プログラム

日本青年国際交流機構の事後活動担当3名が、事業終了後の活動の説明及び国内や世界各国のネットワーク作りについて説明するために、ニュージーランド～バヌアツ間に乗船し、2回のセッションを開催した。セッションでは、各国で行われている事後活動の紹介や今後の活動についての説明を行うとともに、事後活動を考えるディスカッションや展示などを交えた活動紹介を行った。

第19回「世界青年の船」事業 日本参加青年 末吉 涼

今回の第21回「世界青年の船」事業における事後活動連携強化プログラムへの参加を通して、本プログラムの魅力と自分にとっての事後活動とは何かを再認識することができました。

私が担当した第2回の事後活動セッションでは、実際に自分たちに何ができるのかを考えてもらうことを目的としました。そのため、既参加青年による事後活動の発表では、参加青年の興味に合わせて内容をアレンジし、エリア別ミーティングでは、言語や地理的観点から共通点の多い国を組み合わせる等の工夫をしました。その結果、公式プログラムの時間を過ぎてても自主的に残って事後活動のプランを考えるグループがあったり、実際にプログラムを進めたいから、もっと詳しい話を聞かせてほしいという参加青年が現れたりするなどの成果がありました。

今回、本プログラムに参加し、参加青年の人や社会と真剣に向き合おうとする姿勢に刺激を受けました。また、事後活動セッションの企画・運営を通して、事後活動にはいろいろな形があること、自分にできることから始めること、そして、細く長く続けることが大切だと学びました。

今後も世界に広がるSWYの絆を大切に、一步一步確実に事後活動を続けてまいります。ありがとうございました。



クイズ形式で各国の事後活動組織の現状や活動について学ぶ



下船後に自分が実施していきたい活動目標を書き、模造紙に貼り付ける

■洪水被災者支援

ソロモンとフィジーには、津波と洪水で住居などを失った人たちがいる。ソロモンではその被害者を支援することを目的とした「SWY Musical Competition (『世界青年の船』事業音楽コンクール)」を実施する予定。また、森林管理が疎かであることが津波被害を拡大させた原因でもあるため、今後、林業省の支援のもと、苗や種の寄贈を受け、ソロモン、トンガ、フィジーに植林活動を行う。

■プロジェクト「笑顔」

小児病院に入院する子供たちが手紙交換をするプロジェクトを実施する。まず、4月にベネズエラとフィジーの子供たちの手紙交換プロジェクトを開始する。最初は各国10人ずつと小規模で開始し、二か月で完了する予定。



熱心に討議する会議代表者




「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議の各国代表者が松田敏明内閣府政策統括官を表敬訪問



フェアウェル・ディナーには多くの既参加青年が集まった

第7回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」

青年社会活動コアリーダー育成プログラム(以下、コアリーダー事業)は、高齢者関連、障害者関連及び青少年関連の各分野において社会活動に携わる日本青年を海外へ派遣し、また海外の民間組織等で社会活動の重要な役割を担っている青年リーダーを日本へ招へいするという相互の交流を通じ、(1)社会活動の青年コアリーダーの能力の向上、(2)相互のネットワークの形成を図って平成14年度から開始された事業です。今号では招へいプログラム中の地方プログラムについて紹介します。

平成20年 11月9日～18日	派遣事業 ・派遣先:英国(高齢者分野、9名)、ニュージーランド(障害者分野、9名)、ドイツ(青少年分野、9名) ・派遣事業の参加青年は、派遣後、地方プログラム、NPOマネジメントフォーラム等、招へいプログラムの実行委員として受入れに協力	
平成21年 2月3日	招へい青年来日 ・英国(11名)、ニュージーランド(12名)、ドイツ(12名)からそれぞれ3分野の青年リーダーを招へい	
2月4日	開会式・オリエンテーション・基調講演・歓迎会 ・日本のNPO事情及び高齢、障害、青少年の各分野の現状について、基調講演を実施	
2月5日	課題別視察 ・NPOマネジメントフォーラムのディスカッションテーマ(トピック1～3)に即した施設を訪問し、実際の現場の視察及び関係者との意見交換を実施 【トピック1:組織運営マネージャー育成への取り組み】 AM:社会福祉法人 杜の会 SELP・社 PM:特定非営利活動法人 ETIC. 【トピック2:事業運営マネージャー育成への取り組み】 AM:社会福祉法人 慈生会 特別養護老人ホーム ベタニアホーム PM:社会福祉法人 東京コロニー 【トピック3:ボランティアをまとめていくリーダー育成への取り組み】 AM:特定非営利活動法人 自立の家 PM:財団法人 修養団	 歓迎レセプションで武川恵子内閣府大臣官房審議官とギフト交換する英国団
2月6日～8日	NPOマネジメントフォーラム ・[NPOにおける人材育成のあり方]を総合テーマに、上記トピック(1～3)に基づき、日本のNPO団体関係者ととも討議を実施	
2月9日	自主研修・日本文化体験	
2月10日～15日	地方プログラム ・高齢者、障害者、青少年の各分野(コース)に分かれ、以下のコーステーマに沿ったプログラムを実施。関連施設を訪問し、NPO及び各分野の関係者と共に地方セミナーを実施 【高齢者】 島根県:生きがいのある高齢者の生活 【障害者】 宮崎県:障害者の社会参加のための支援 【青少年】 和歌山県:ユースワーカー(ユースリーダー)の育成の在り方	 提言文を読み上げる参加者代表(成果発表会)
2月16日	コース発表会・評価会・歓送会	
2月17日	招へい青年帰国	

高齢者コース【島根県】

島根県受入実行委員
国際ネットワークしまね事務局次長
内田 真理子

青年社会活動コアリーダー育成プログラム高齢者コースとして、私たちは「生涯現役で生きがいを実現できる社会へ～年齢を重ねることへの価値を知る～」を島根県でのプログラムテーマとし、2月10日より6日間の外国参加者の受入れを行いました。

総人口の3割近くを高齢者で占める島根県にとっては絶好の事業でした。島根県から派遣プログラムに参加した3名から出されるプログラム案には三者三様のものがあり、実行委員会で話を聞いているだけでも、わくわくするような内容でした。

ただ、テーマである「生きがい」が幅広い意味を持つため、島根県でのプログラム内容がなかなか決まりませんでした。それぞれが仕事を持ち、限られた準備期間の中で、「このプログラムの主旨は何なのか」と根本的なところを実行委員全員が一致した見解を持つに至るには、あまりにも時間が足りなかったように

日程	プログラム
2月10日	県庁表敬訪問、島根県健康福祉部による高齢者福祉施策について講義、歓迎会
2月11日	コミュニティサポートいずも
2月12日	松江市社会福祉協議会、松江市法吉公民館
2月13日	地方セミナー、ホームステイ
2月14日	歓送会
2月15日	コース評価会

思います。最終的には、派遣プログラム参加青年には、「招へい者に何をしたらいいのかわけなく「自分たちが招へい者から何を引き出すか」に焦点をあてプログラム内容を準備してもらい、他の実行委員は全力でそれをサポートする、という意味確認をとりました。

初日の県庁訪問に始まり、NPO法人「コミュニティサポートいずも」、松江市社会福祉協議会、松江市法吉公民館にて、それぞれ施設訪問・体験、意見交換、話しかけなかった内容は地方セミナーの時間をとり、派遣プログラム参加青年の進行による現職同士のディスカッションを行い、また1泊2日のホームス

テイもあり、スケジュール的には無理のない充実した内容のプログラムを作りました。

私自身は、期間中1日しか同行できませんでしたが、連日プランニング通りにスムーズに執り行われ、実行委員から「ディスカッションも順調だった」と聞き、「日本人の話が少なかった」という報告もありましたが不安は取り越し苦労だったとほっとしました。歓送会での島根県の伝統芸能体験は大いに盛り上がり、スタイル抜群の女性参加青年が「どじょうすくい(男踊り)」をがに股で踊る姿はとても印象的でした。ホストファミリーからも好評で、数日前に出会ったとは思えないほど、温かい空

気が会場を埋め尽くしていました。

このプログラムに携わったことで、実行委員の中心となった国際ネットワークしまねは、今までの単なる受入れ、おもてなしのみにとどまらない、国境を越えての情報収集、あるテーマに基づくゴールの設定とそれに向けて相互模索ができる団体に近づけたのではないかと思います。

しかしその後の振り返り会の内容は、少し厳しいものでした。「意見交換会ではやはり外国青年の発言が目立った」、「プログラムの過去の実績や、参加国の制度について事前に知っておきたかった」、そして「この招へいプログラムで日本側が何を求めるのかわらぬもう少し明確にできたらよかった」という意見を受けた時、まだまだ改善点が多々あることを感じました。

打合せの段階に感じたことは、このプログ



地方セミナーの分科会にて

ラムの自由度が高い分、ある程度専門知識を持ったアドバイザーのような方、または機関のかかわりが必要だということです。派遣プログラム参加青年がもっと主体性を持ってプログラムを進めていけるように、出てきた提案を同じ専門的立場から後押ししたり、テーマを落とし込むための質疑応答を繰り返せるような環境をこちらで手配したりできていたら、より派遣プログラム参加青年の特色をい

れて終わりではなく、ここから本当のスタートになることを実感されると思います。築いたネットワークを大いに利用して、期間中引き出すことができなかった不足部分を、時間に囚われることなく補い、次回は例えばアドバイザーとして活躍していただけた時、やっと成功だったといえるのではないのでしょうか。きっとそうなることを信じようと思います。

かせたプログラムに仕上がっていたのではないかと感じています。

派遣プログラム参加青年以外の実行委員がどうしても運営面の準備に時間をとられる分、プログラム内容についての窓口をもう一つ設ける必要があったのではないかと、実行委員からも提案がありました。

ただ、派遣プログラム参加青年のみなさんは既参加青年になれることで、プログラムがこ

障害者コース【宮崎県】

Sean Stowers

National Leader of New Zealand Delegation

I consider myself very privileged to have led a delegation of young New Zealand (NZ) Leaders to Japan as part of the Young Core Leaders of Civil Society Groups Development Program FY2008.

I was very impressed with the capacity and capability that all delegates brought to their respective fields of work. The Not for Profit sector will continue to develop if these leaders are encouraged and continually developed to demonstrate how the NPO sector can serve its local communities.

Our first week in Japan was focused on the NPO Management Forum in Tokyo while the second week I was based in Miyazaki Prefecture with a focus on the disability sector.

I was struck by the number of similar issues that people with disabilities face whether in Japan, NZ, UK or Germany e.g. lack of sustainable funding, challenge to find volunteers, lack of public awareness and acceptance of what people with disabilities can contribute to their community.

While there are challenges there are some great initiatives occurring as well. The agency SELP MORI Corporation was a good example of a social enterprise in action and it was heartening to see that the Social Welfare Corporation Mahoroba was led by a woman with a physical disability. For people with disabilities to succeed and become fully accepted into society it is critical that they lead from the front – “Nothing about us without us.”

日程	プログラム
2月10日	県庁表敬、宮崎県福祉保健部による障害者施策について概要説明、歓迎会
2月11日	社会福祉法人げんき リサイクル工房 社会福祉法人まほろば福祉会 ほっとすてーしょん翼
2月12日	宮崎市建築指導課/宮崎市のバリアフリーの取組、地方セミナー
2月13日	宮崎市立広瀬西小学校訪問
2月14日	ホームステイ
2月15日	歓送迎会、コース評価会

ニュージーランド団長
ショーン・ストワーズ

平成20年度「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」でニュージーランドの青年リーダーを日本へ引率することができ大変光栄に思います。

全参加者の持つ各自の業務分野における可能性や能力に大変感銘を受けました。こうしたリーダーたちによって、NPOセクターがいかに地域で役目を果たせるのかを継続的に示していければ、非営利セクターは発展していくことでしょう。

日本での最初の週には、東京でNPOマネジメントフォーラムに、第2週目には宮崎県で、障害者分野に焦点を合わせました。

障害を持つ人々が、日本であれ、ニュージーランドであれ、英国であれ、ドイツであれ同じような問題に直面していることに驚きました。不安定な資金調達、ボランティア確保の問題、国民意識の欠如、障害者であっても社会に貢献できるという認識の欠如などです。

問題はありますが、すばらしい取組も始まっています。社会福祉法人杜の会「SELP・社」は実際に活動している社会企業の好例ですし、身体障害を持つ一人の女性が代表を務める社会福祉法人まほろば福祉会の見学は励みになりました。障害のある人が成功し、社会に完全に受け入れられるために、彼らが先頭に立ち「私たち抜きで私たちのことは何も決めるな」という姿勢が必要不可欠です。



宮崎県副知事表敬であいさつをする筆者

Miyazaki Prefecture is fortunate to have a local government very committed to having a city that is accessible for all to use. Its Barrier Free Policies are advanced and will serve future generations of people well.

Miyazaki Prefecture is blessed with an abundance of seafood and great local dishes. One learning from the numerous social events we attended was that you can never out drink the Japanese when it comes to Sake or Shochu!

I made a number of friends and contacts along the way that I hope will continue into the future. I suspect I will gain more from some of the informal networks developed through personal contacts on internet sites such as Facebook as opposed to formal alumni networks.

I look forward to reciprocating the hospitality provided to the NZ delegation for any future visiting groups or individuals and hope that such exchanges/programmes continue to grow and develop.

私たちが皆が活用しやすい街づくりのために、宮崎市が熱心にかかわっているのは、市民にとって幸運なことです。宮崎県のバリアフリー政策は進歩的なもので、次世代の人々にとっても役に立つことでしょう。

宮崎県には、海産物や郷土料理が豊富にあります。さまざまな社交行事に参加して学んだことの一つは、お酒や焼酎については、日本人にかなわないということです。

多くの友人や、これからも連絡を取り続けたいと思う人ができました。公式の事後活動組織のネットワークとは対照的ですが、フェイスブックのようなインターネットサイトによる個人的なつながりを通して、非公式なネットワークからもっと多くのものを得られるかもしれないと思っています。

ニュージーランド参加者が受けたおもてなしのことを思うと、これからニュージーランドを訪問される団体や個人の皆様にお返しができることを楽しみにしています。また、このような交流プログラムが継続され、さらに発展することを願っています。

青少年コース【和歌山県】

和歌山県受入実行委員
(社)和歌山県青少年育成協会
副主査 寺前 篤

私は平成20年11月、「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」の青少年分野でドイツに派遣していただきました。派遣先での訪問施設はバラエティに富んでおり、対応してくれた方々も非常に親切で、勉強になりましたが、同年代の青年が何を考えているのか、意見交換する機会が少なかったのが残念でした。今回、地方プログラム(和歌山県)における訪問施設の一つとして、当協会が外国青年13名の受入れを行うにあたって、その点を配慮し、和歌山県で団体活動をしている青年13名に意見交換会に参加いただきました。具体的には、ボーイスカウト、ガールスカウト、和歌山県BBS連盟の方や、今回受入れの母体となった海友会メンバーに声をかけました。また、ドイツ、ニュージーランド及び英国の3か国の青少年の現状と人材育成を中心とした各団体の取組について、業務の参考になるものを吸収し、外国参加青年や日本側の参加者にも、今後の活動の参考になるような意見交換ができればと考え企画しました。

日程	プログラム
2月10日	県庁表敬訪問、歓迎会
2月11日	(社)和歌山県青少年育成協会、関係者との意見交換会
2月12日	特定非営利活動法人くちくまのクラブ、県立熊野高等学校
2月13日	地方セミナー、ホームステイ
2月14日	歓送会
2月15日	コース評価会

今回、派遣と招へいプログラム双方のメインテーマが「青少年リーダー育成～ユースワーカー(ユースリーダー)の育成の在り方～」でしたので、当協会訪問にあたってもテーマに沿っての組み立てを行いました。しかし、職業もしくはボランティアとして青少年と活動し、かかわる人を指す「ユースワーカー」という概念が、私たち日本人にはなじみが薄いため、参加者同士、論点がかみ合って意見交換し、限られた時間を活用できるよう工夫しました。

当日のスケジュールは、午前中に当協会の事業概要の説明と質疑応答を行い、その後、隣の「和歌山ビッグホール」で開催していた「わかやま元気1万人フェスタ」(NPO法施行10周年を記念したイベント)を見学し、分科会メンバーと昼食を一緒に食べ、午後に分科会での意見交換会を行いました。分科会では自己紹介等の時間を長めに取り、身近な課題や悩みから話し合うことで意見が出やすい環境を作りました。日本側の参加者が、ユースワーカーの大まかなイメージを理解し、今後の活動の参考になるものを掴んでもらいたいと思っていました。実際、分科会の発表を聞いてい

ると、ユースワーカーの話題までたどり着かなかったグループもあったようですが、発表を聞く限りでは、活動の参考になるような成果が得られたようでした。

今後の課題としては、全体会で発表された意見を参加者がどのように取り入れ活用していくか、また、どのように検証していくかだと思います。何年後に、参加者が取り組んだことに対しての内容や結果を何らかの形で共有しあい、それぞれの活動に共有した情報を活用していけば、青少年の育成を効率的に進めていけると思います。一時のみの興奮で終わらせずに、継続して活動できるような働きかけを当協会でもしていきたいと考えています。当協会としても外国参加青年から、資金獲得の方法(啓発グッズの販売等)のほか、いくつかヒントになるような意見もいただいたので、聞くだけで終わらず、具体化して事業に繋げていきます。

私自身、実行委員として地方プログラム全日程に随行させていただき、その中で招へいした3か国それぞれの事情や考え方が、おぼろげながらも理解できたような気分になりました。結局、手段や手法は違っても、各国とも青少年育成に対する理念は同じなのだ、と思いました。今回の受入れも派遣プログラムと同様に勉強になり、貴重な経験をさせていただきました。

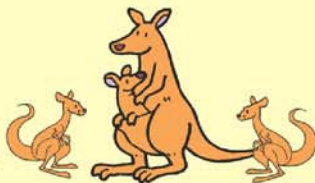
最後に、今回このプログラムに携わっていただいた海友会を始めとする関係者の皆様の多大なる御尽力と御理解に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



青少年育成協会訪問及び関係者との意見交換会

第3回SWYAA国際大会をオーストラリアで開催します!

- ♣ 日程：2009年9月2日(水)～6日(日)
- ♣ 主催：日本青年国際交流機構
- ♣ 共催：SWY Australia (オーストラリア事後活動組織)
- ♣ 開催地：オーストラリア ブリスベン
- ♣ 日本在住者の申込締切と参加費
 - 2009年7月7日必着 42,000円(早期割引金額)
 - 2009年8月12日必着 49,000円(最終申込金額)
 - ※ 送金手数料、事務取扱料を含みます
 - ※ 送金に日数がかかるためホームページ記載の期日より早めの締切となっています
 - ※ 日本在住者はIYEOを通じて申込をしてください
- ♣ ホームページ：<http://www.swyaustralia.org/>
- ♣ IYEO問合せ先及び日本在住者申込受付窓口
 - 担当：齋藤・深作 swyaa_globalassembly@iyeo.or.jp



Attend the 2009
Global Assembly
in Australia!

2-6 September 2009
3rd Global Assembly
Brisbane - Australia
SEE AUSTRALIA WITH FRIENDS

主な活動予定

9月2日	到着、歓迎レセプション
9月3日	社会貢献活動実施
9月4日	オーストラリア動物園訪問 ライフセーバーの活動視察
9月5日	事後活動協議会 ブリスベン女性病院訪問 ファンデレージング・ディナー
9月6日	閉会式 希望者はホームステイへ



グローバル・フォト・パネルの貸し出し



過去4回実施されたグローバル・フォト・コンテストの入賞作品が写真パネルとしてまとめられています。パネルは、世界各国・日本各地への貸し出しが可能です。日本各地/世界各国で展示会を実施し、国際交流のすばらしさ等をアピールしていただければ幸いです。写真パネルの貸し出しを希望される方は、以下をご覧ください。



【パネルの貸し出し方法】

- ◆希望するパネルの種類(右を参照) ◆利用目的、◆貸出期間、◆担当者名、◆送付先をご記入の上、IYEO事務局までお問合せください。

IYEO事務局 グローバル・フォト貸出係
TEL 03-3249-0767 FAX 03-3639-2436
E-mail: globalphoto@iyeo.or.jp

【貸し出し可能なパネルの種類】

- ①第1回「食のある風景」(2004年)
- ②第2回「ストリート・マーケット」(2005年)
- ③第3回「微笑みと笑い」(2006年～2007年)
- ④第4回「次の世代に遺したいもの」(2007年～2008年)

今月の表紙

第4回グローバル・フォト・コンテスト
テーマ：「次の世代に遺したいもの」

タイトル：かわいい弟
撮影者：木村克也
(育成交流/バレルト三国)
撮影場所：パキスタン



タイトル：Freedom of Choice - Let Children
Pick the Best!
(自分の一番好きなのを選んでね)
撮影者：Vladimir Tamayo Mata (SSEAYP27)
撮影場所：日本



編集後記

今月号マクロコスムの表紙の美しい写真は、「グローバル・フォト・コンテスト」の入賞作品です。コンテストの入賞作品を含めた30点は写真パネルになっており、日本だけでなく、世界各地で展示され、大変好評です。パネル使用後に送付していただくアンケートを読むのが楽しみです。(ふ)

MACROCOSM 5月号 vol.86

2009年5月31日発行

編集 マクロコスム編集委員会

発行 (財) 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

E-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 200円 [本体191円]

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270

NIPPON MARU FINAL CRUISE

IYEO会員
5%OFF






by TOPTOUR



数々の感動と様々な思い出を共にしてきた「にっぽん丸」
2009年秋、「にっぽん丸」が大改装を行います。
皆様のお思い出がぎっしり詰まった白い雄姿「にっぽん丸」最後のクルーズを満喫し
あの日の郷愁に浸ってみませんか。

記載の5つのクルーズにつきまして、IYEO会員の皆様と同行の皆様へ一律5%割引いたします。

快適な船旅を、お約束します。

 東北夏祭りクルーズ 2009年8月2日(日)～8月7日(金)	横浜→秋田→青森→横浜 秋田平燈まつり、青森ねぶた祭とも「にっぽん丸」のお客様専用 機数席から間近に観覧。その迫力を体感してください。	■旅行代金 大人お一人様 (船内食事付・消費税込)	グループ3 222,000円～800,000円 スイートルーム
 夏休み 横浜のんびりワンナイトクルーズ 2009年8月20日(木)～8月21日(金)	横浜→伊豆諸島周遊→横浜 ワンナイトクルーズですが、朝昼夕の3食付。エンターテイメ ントも厳選しました。「にっぽん丸」の神髄、「食」と「くつろぎ」 を気軽にご体験いただけます。	■旅行代金 大人お一人様 (消費税込)	グループ3 39,000円～150,000円 スイートルーム
 横浜／小樽クルーズ 2009年8月25日(火)～8月27日(木)	横浜→(終日航海)→小樽 涼しい風を感じる頃、横浜を出発した「にっぽん丸」は、三陸海岸、 津軽海峡を通り、秋が近づくと小樽を目指します。	■旅行代金 大人お一人様 (消費税込)	グループ3 60,000円～198,000円 スイートルーム
 横浜ワンナイトクルーズ 2009年9月17日(木)～9月18日(金)	横浜→相模湾周遊→横浜 気軽にご参加いただけるワンナイトクルーズです。上質なエン ターテイメントもご用意しました。クルーズならではの優雅な ひとときをお楽しみください。	■旅行代金 大人お一人様 (消費税込)	グループ3 39,000円～148,000円 スイートルーム
 横浜のんびりワンナイトクルーズ 2009年9月24日(木)～9月25日(金)	横浜→伊豆諸島周遊→横浜 クルーズ時間はたっぷり24時間、しかも3食付。秋のひととき をゆったり過ごせるクルーズです。食とくつろぎの「にっぽん丸」 を気軽に体験していただけます。	■旅行代金 大人お一人様 (消費税込)	グループ3 39,000円～150,000円 スイートルーム

詳しい旅行条件を説明した書面をお渡していますので、事前にご確認の上、お申し込み下さい。最少催行人員2名様、全食事付き。添乗員は同行しませんが、船内では船のスタッフがお世話いたします。



トップツアー株式会社

TOPTOUR

●旅行企画/実施

国内旅行センター

〒153-8550 東京都目黒区東山 3-8-1

●お問い合わせ・
お申し込み

新宿支店

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-20-2 <http://toptour.jp>

総合旅行業務取扱管理者：磯 康彦 クルーズデスク：鈴木・江間
観光庁長官登録旅行業者第38号 (社)日本旅行業協会正会員



(社)日本旅行業協会正会員
ボンド保証会員



旅行業公正取引
協議会 会員

営業時間 平日：09:30～18:30 土・日・祝日休業

TEL.03-3340-0620
FAX.03-3340-0628

NIPPON MARU にっぽん丸



スペイン・イビザのにっぽん丸 撮影：三好和義

あこがれが、親しみに変わる。

にっぽん丸のフィールドは、地球です。日本の海、世界の海へ、皆様をエスコートします。



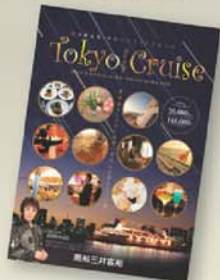
東京ワンナイトクルーズ

東京のきらめく夜景に見送られ、夢のような夜のクルージング。上質のディナーとエンターテインメントをどうぞ



Cruise Point

- “美味なる船”にっぽん丸の特別ディナーをご堪能ください
- ピアニスト「HIROSHI」が贈る、ユニークなエンターテインメント、ピアノ・マジック・ショー



2009年6月25日(木)～6月26日(金) **東京発着**
東京→(相模灘周遊)→東京 39,000円～148,000円



ウイークエンド新宮・館山クルーズ

初夏の房総と世界遺産の熊野。2泊3日で2つの寄港地をめぐる船旅。週末を利用して手軽に船旅を楽しめます。



Cruise Point

- 週末の3日間を利用して気軽に参加できるクルーズです
- 世界遺産「熊野古道」を堪能
- 館山では漁協では“にっぽん丸農園”でメロン収穫体験を実施



2009年6月26日(金)～6月28日(日) **東京発着**
東京→新宮→館山→東京 78,000円～320,000円



oasisにっぽん丸クルーズ

にっぽん丸定番のテーマクルーズです。洋上のオアシスで日々の疲れを癒し、様々なイベントをお楽しみください。



Cruise Point

- 酢ムリエ、内堀氏によるデザートビネガーセミナー
- デューク更家ウォーキングセミナー
- CHILDHOOD/森美代子コンサート



2009年7月15日(水)～7月17日(金) **横浜発着**
横浜→(伊豆諸島周遊)→横浜 89,000円～328,800円

*表示の代金はステートルームグループ3(1室3名利用)～スイートルーム(1室2名利用)の大人お一人様(航海中全食事付/消費税込)旅行代金です。*この他にも各種クルーズがございます。お気軽にお問合せください。